

フットパス「塩狩峠の道」

最長9km（塩狩駅発着周遊夫婦岩往復）、最短1.5km（遊歩道入口から夫婦岩往復）



名勝 夫婦岩【奇岩 夫婦岩の生立ち】▼人類が登場する遥か以前「夫婦岩」は地質時代のいう新第3記中新世の今から1300万～1200万年前、この時代の火山活動により陸上に噴出した溶岩（岩脈？）であるらしい。▼水平方向の細かい節理と垂直の間隔の広い節理とが発達した大小3つの岩からなっており、岩質はいずれも角閃石安山岩である。この時代の角閃石を含む安山岩は道北ではここから幌加内を経て天塩中川にかけて分布している。▼中央の最も大きい高さ約10mの岩を「男岩」、左側を「女岩」、右側を「子岩」といい、なぜこの様な形になったかは定かではないが、1枚の岩が長い年月の間に浸食されて現在の3つに別れた形になったか、または別々に溶岩が積み重なって3つの形になったかのいずれかと思われる。

【神岩 夫婦岩の成立ち】▼今は昔、開拓の鍬が下ろされて間もない1903年10月、すっかり紅葉した山中を材木調査に出かけた大石次郎、井内惣七、星長治、渋谷某の一行が密林果てしなく続く中、偶然山頂にそびえる2つの岩を発見したものである。▼その時以来、「夫婦岩」として今日に及んでいる。▼1917年、この地の所有者となった美口理平は田中久右門と相談し全村に呼びかけて相馬妙見神社の分霊を祀り、本州各地から母村を離れ開拓入植した先人たちは五穀豊穡、子孫繁栄（夫婦岩の眼下に広がる南丘地区では、双子の出産が多かったと聞く。）を祈願し、心の拠り所として崇められた。▼その後、1923年頃まで毎年乗馬隊が参加し、盛大に神霊渡御が行われていた。（2002年8月 和寒町）